

日本海地震・津波プロジェクト

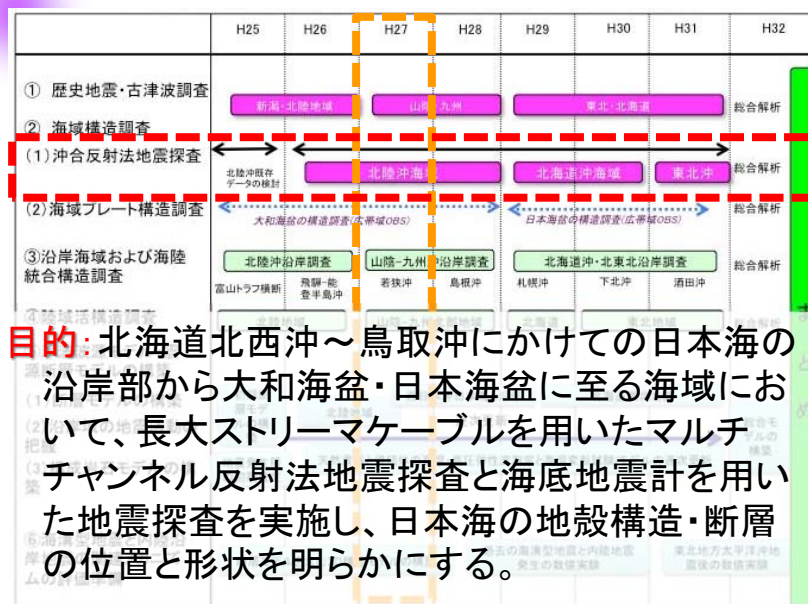
沖合構造調査

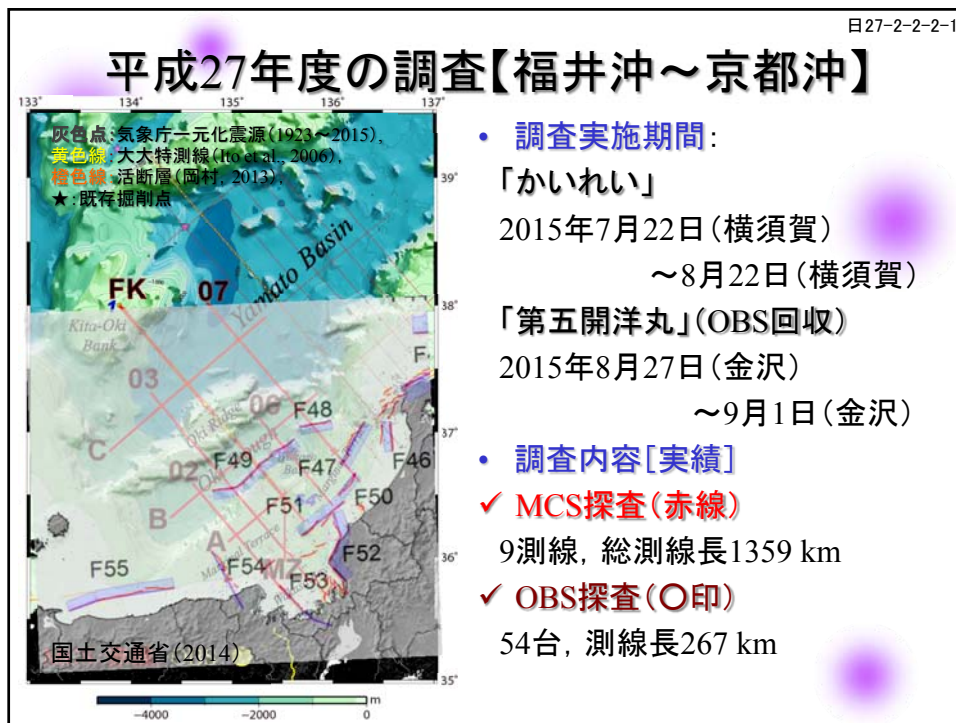
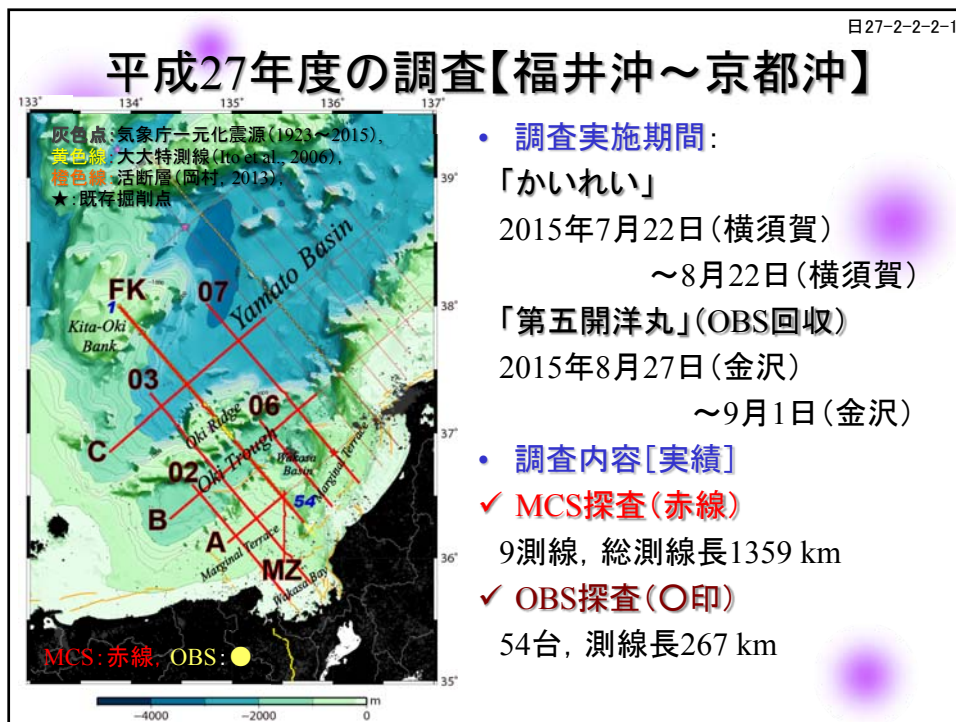
国立研究開発法人

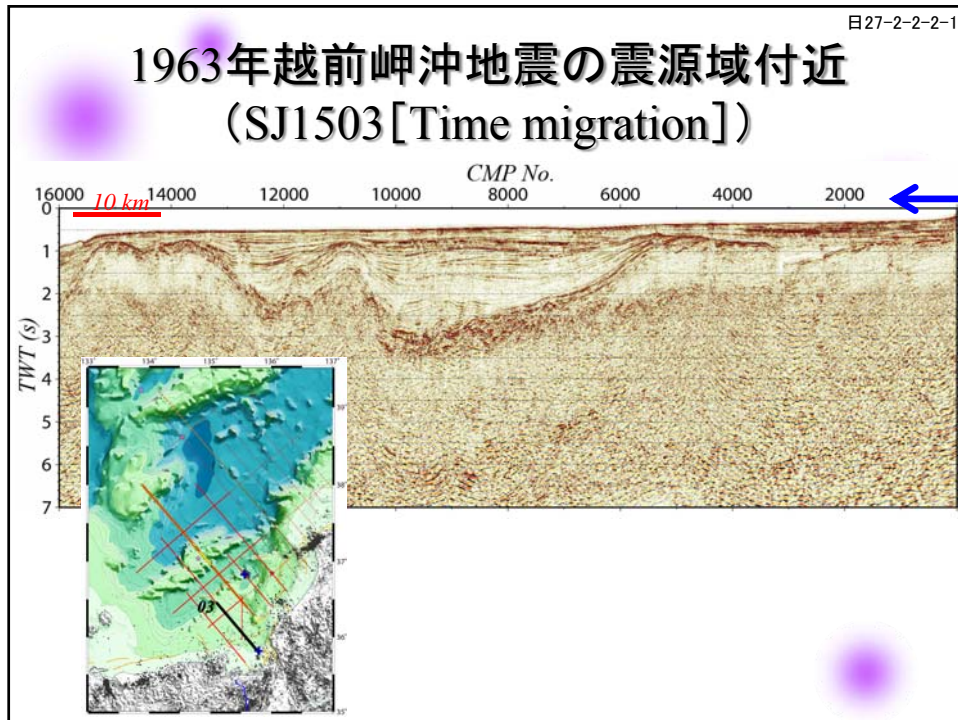
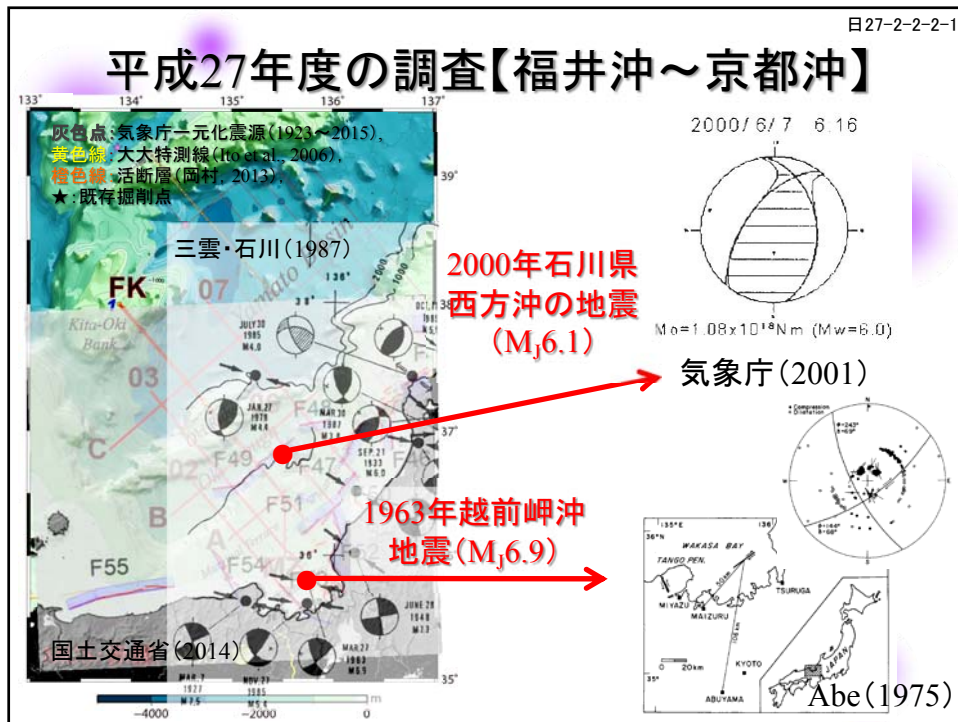
海洋研究開発機構

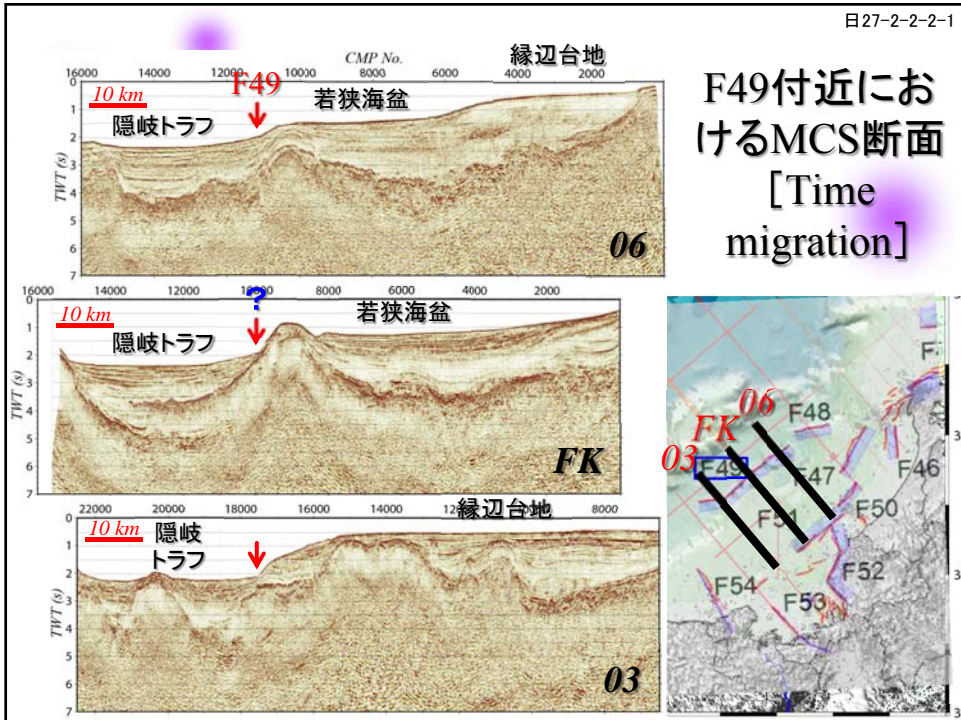
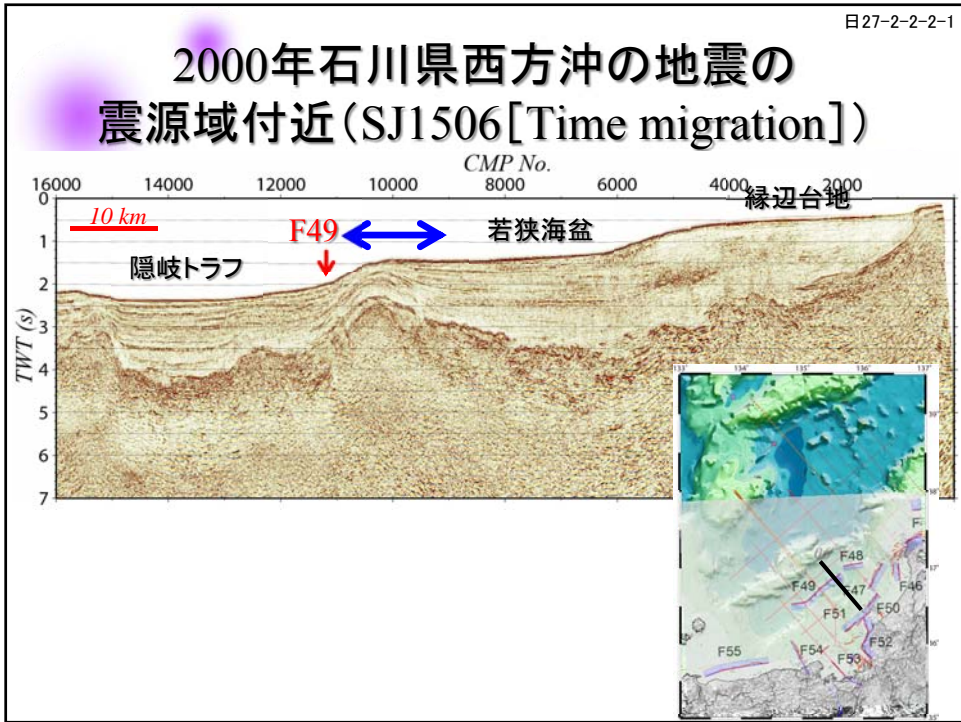


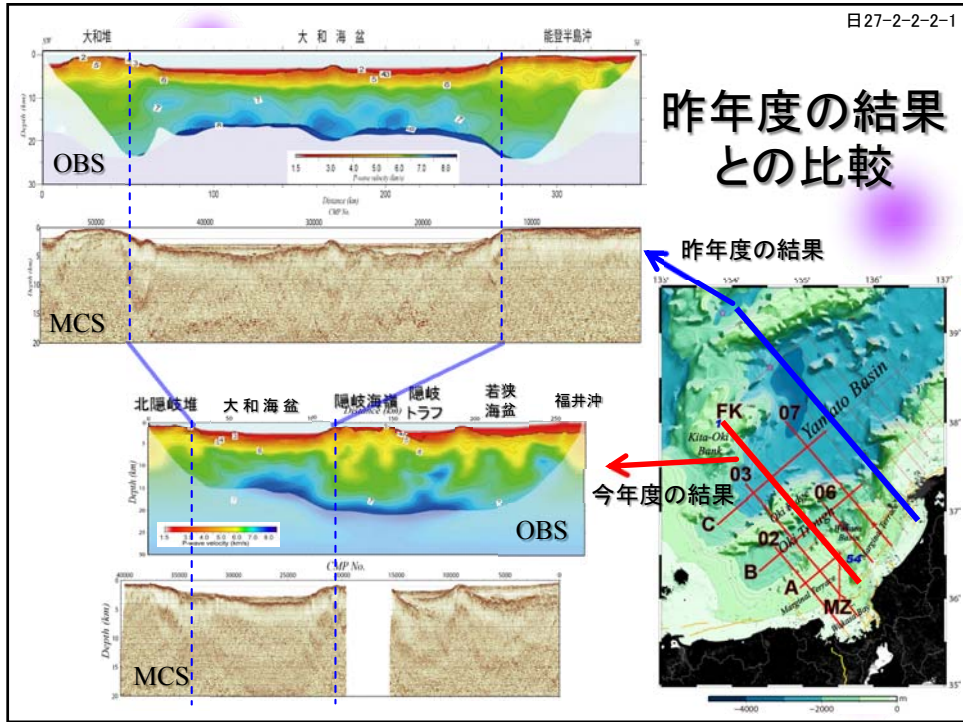
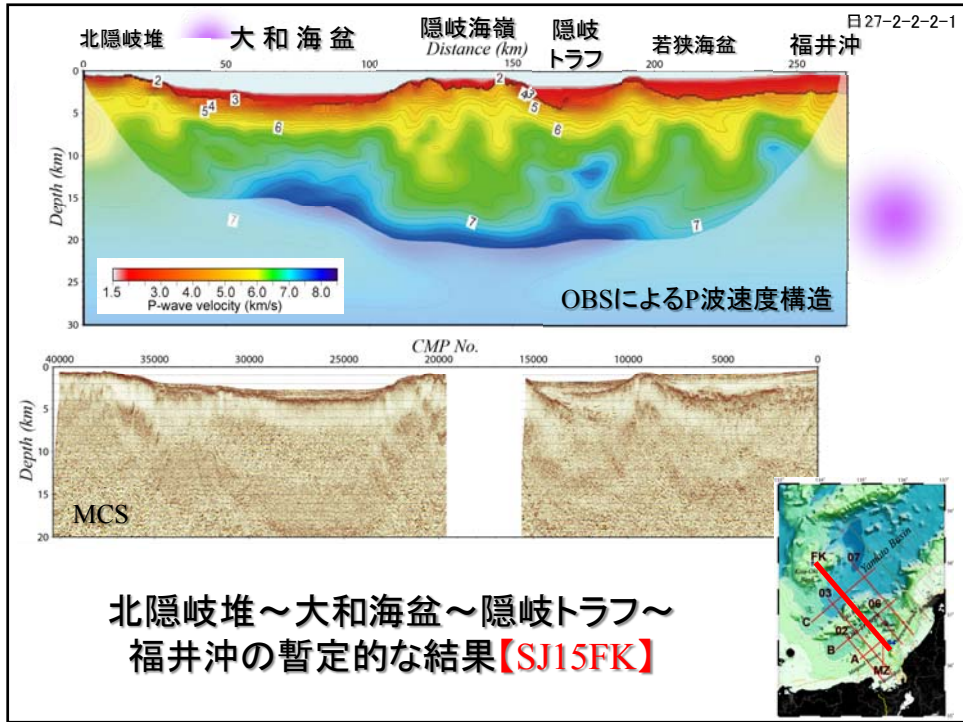
沖合構造調査(線表)











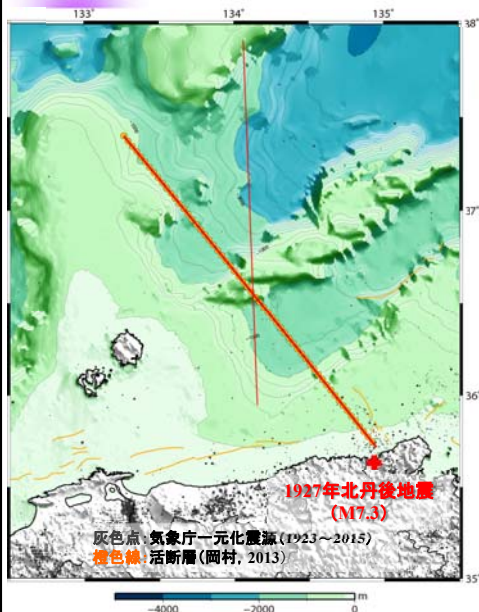
日27-2-2-1

まとめ

- MCS探査の暫定的な結果から、隠岐トラフ南縁に発達する断層(F49)は途中で切れている可能性があり、今後改めて検討の必要がある。
- F49などの断層の空間的な連続性をより特定させるためには、3D地震探査など新たな観測も必要である。
- OBS探査の暫定的な結果から、隠岐海嶺・北隠岐堆は大陸地殻的な構造となっており、大和海盆は厚い海洋地殻的な構造となっている。隠岐トラフから福井沖においては、大陸地殻に近い構造ではあるが、上部地殻の不均質性が大きく、能登半島沖と比較すると地殻の厚さが薄くなっている可能性がある。

日27-2-2-1

平成28年度の調査計画案(兵庫沖～鳥取沖)



- 調査予定時期(調整中):
2016年8月
- 調査内容
(測線の詳細は現在調整中):
✓ MCS探査(実線)
✓ OBS探査(丸印)
- 特記事項:
✓ 漁業関係や他機関との調整上、調査エリアやエアガン発震の期間が制約される見込み。
✓ 浅海域でのOBSの設置に関する調整が難航している。